

ICTで校務をDX!

学年 教職員 教科など 校務

Google Sites と Chatで情報共有を素早く効率的に

使用するアプリケーション等
Google Workspace
全般

DXする題材 日報・週報等の日々の細かな連絡をオンライン上で

DXのねらい 紙・口頭での連絡からICTを活用することで、記録を残し、素早い伝達を可能にする。

ICTを活用することで できること

端末さえあれば、日報・週報等の全体への連絡をGoogle Sitesで確認できる。また、情報をサイトに集約することで、端末さえあれば、日報・週報等の全体への連絡をGoogle Sitesで確認できる。さらに、オンライン出欠連絡、コロナ情報、職員会議資料等、必要な情報を素早く確認ができる。朝の連絡で漏れた内容や電話連絡、相談室登校、保健室利用者など、直接伝えに行っていたり、メモを机に置いていた内容についても学年内チャットを利用して瞬時に情報を共有できる。

DX前 (ICTを使っていなかった頃は・・・)

1 日々の連絡、出欠席の確認等

- ①日々の連絡は、教務の出す日報で確認していた。前日までに、職員連絡など記入しておかないと、紙ベースの連絡のため、情報が抜ける可能性があった。
- ②出欠席も電話連絡のみだったため、朝の業務を増やしていた。
- ③コロナ関連情報に関しても、管理職・担任は把握していても、学年主任・学年職員への連絡に漏れもあった。

2 電話連絡・相談室対応・保健室利用の情報共有

- ①保護者からの電話連絡について、メモを机に置くなどしていたが、教職員が職員室に戻らないなどにより、連絡が遅れる場合があった。
- ②相談室に登校した生徒がいたときに、相談員がメモを机に置く、または教室まで登校したことを伝えに行くなどしていたため、相談員の業務量が多くなっていた。
- ③保健室利用に関しても同様で、養護教諭の業務量が多くなっていた。

3 まとめ

- ① 授業時間帯での連絡ツールがなかったため、口頭での伝達は、連絡漏れや忘れてしまうなどの問題があった。また、メモでの連絡は、伝達の遅れにも繋がっていた。



DX!

DX後

1 日々の連絡、出欠席の確認等

- ①Google Sitesを利用することで、必要な情報を、いつでもどこでも閲覧が可能になった。
- ②掲示板 (Google ドキュメント)にいつでも、どこでも誰でも記入することができ、情報発信が容易になった。
- ③オンライン出欠連絡も、Google Sitesと紐づけをしたことで、どこでも確認が可能になった。
- ④コロナ関連情報にしても、スプレッドシートで管理することで、情報共有が容易になった。



2 電話連絡・相談室対応・保健室利用の情報共有

- ①保護者からの電話連絡は、緊急性のあるものは、教室まで伝えに行く必要のあったものが、多くの職員で共有しているため、チャットを見ていなくても、近くの職員が伝えたりとお互いにフォローしながら情報共有ができるようになった。
- ②相談員にとっては、生徒に登校したことを容易に伝えられるようになり重宝している。また、個々の生徒の対応に関することも、その場で学年職員に質問ができるので、非常に役に立っている。また、担任も生徒に登校したことがすぐに分かり、休み時間に相談室に寄るなど、情報伝達が早いメリットが大きく出ている。
- ③養護教諭も、体調不良者の情報共有がすぐにできることで、学年内の職員がサポートに入るなど、相談員同様、重宝している。



3 まとめ

- ① 情報発信が容易になり、連携力を生む原動力になっている。サイトに関しては、ほとんどの職員が毎朝閲覧する習慣がついているが、チャットに関しては、リアルタイムに情報が発信されてくるため、情報をキャッチできない職員もいる。休み時間や2時間に1回は見るなど、教職員全員が工夫をし、情報をできるだけ早くキャッチしようと、意識を変えることで、更に大きな効果が期待できる。

授業者から (成果・課題・留意点)

情報発信のICT化の有用性は高いものがあり、授業などでなかなか顔を合わせることができない、我々教職員にとって非常に有効な連絡手段である。今まで使用していなかったため、「大変そう」や「操作の仕方がわからない」などの問題は生まれてくるだろうが、使うことで教職員が有用性を理解し、意識を変え、校務の効率化を図っていく。推進していくためには、操作のマニュアル化や横の繋がりでサポートなどより一層の工夫が必要となってくる。